

教育広報

かけはし

第27号 平成8年11月15日発行
発行 千代田区教育委員会



楽しかった運動会（昌平小）

主
な
記
事

- ☆夢のある教育をめざして
—昌平童夢館オープン—
- ☆中学校適正配置は
平成9年度実施を延期
- ☆秋の学校行事
- ☆全小学校にコンピュータ設置
- ☆中学校生徒海外交流教育

開閉式ドームを備えた新校舎の屋上校庭で、初めての運動会が行われ、子供たちも力一杯の競技を繰り広げました。どの顔もみんなうれしそうでした。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

夢のある教育をめざして

生涯学習の拠点としての学校づくり
 昌平小学校長・幼稚園長 矢川 護
 新校(園)舎に移転して一ヶ月余が経ちました。子供たちは新しい施設での生活にも慣れ、恵まれた環境の中でのびのびと学校(園)生活を送っています。
 本校(園)には開閉式屋根付きの屋上校庭、水深調節ができる可動床の温水プールなど、近代建築技術を駆使した設備をもっています。
 これらを大いに活用し多様な学習活動の在り方を探り、本校(園)の教育課題をひとつひとつ達成していくよう、全職員が夢と緊張感をもって取り組んでいます。
 先日、マスコミで日本一ハイテクの小学校・幼稚園として紹介されました。しかし、昌平童夢館の中の小学校・幼稚園は、従来の位置付けから一歩前進して、昼間は学校・幼稚園、夜間と休日には地域の生涯学習の拠点としての大きな役割があります。
 学校教育と社会教育の機能を併せ持つ複合施設の中の小学校・幼稚園として、従来のイメージから脱皮し学校(園)をさらにオープンにし、幼・小の連携を図り、家庭や地域と手を携えて、複合化のメリットを生み出していききたいと考えています。
 その中で、心豊かな子供たちを育ていくとともに、生涯学習の拠点として、大きくはばたくよう努力してまいります。



▲温水プールで快適な水泳の授業

夢がいつばい昌平童夢館
 昌平小 六年 藤井 淳
 ぼくは、昌平童夢館に来て、とてもうれしいことがあります。それは、この校舎には温水プールがあるからです。前の校舎のプールは雨が降ったら入れないし、距離も短かったから、こっちの学校の方がいいです。設備がすくなくて温度も水深も調節ができます。ぼくも早く、思いきり泳いでみたいです。
 プールの他にも、屋上校庭という、その名のとおり屋上に校庭があります。雨の日はドームが閉まるという設備もあります。区民の人にも利用してもらい、みんなの学校にしたいと思います。



▲雨天でも体育授業が実施できる屋上校庭

昌平童夢館ができて
 昌平小 六年 古川 貴子
 わたしは、昌平童夢館ができてとてもうれしいと思います。今までせまい校庭で、割り当ての日にしが遊べなかつたけれど、今は屋上校庭、体育館、そして芳林公園でも遊べます。たくさん本がある昌平まちかど図書館も、利用できます。
 だけど校舎が広すぎて、先生たちを探すのに時間がかかってしまいます。それに六階まであるので、階段の登り降りが大変です。でも、小学校生活最後の学年を、有意義に過ごしたいです。卒業まであと四か月、新しい校舎での初めての卒業生になります。すてきな思い出をたくさん作っていきます。

昌平童夢館オープン

子供たちの夢を形にした「昌平童夢館」は、平成八年九月二十八日に落成式を開催してオープンしました。この施設は、これからの国際化や情報化社会に対応する二十一世紀に向けた質の高い教育の場として、また生涯学習社会にも対応できる施設として建設されました。
 十月一日には昌平小学校・幼稚園が、移転後の授業・保育を開始しましたが、どの子供たちも、初めて目にした「力」の校(園)舎に歓声を上げていました。特に、子供たちにとって、屋上校庭や温水プールなどの最新の設備は、大変好評だったようです。また、昌平まちかど図書館も開館し、多数の地域の方のご利用をいただいています。
 新校(園)舎への移転に先がけ、九月二十四日には「校舎・園舎」に感謝する集会を開き、愛着と温かいぬくもりのある旧校(園)舎に、子供たちは感謝の心を込めてお別れの挨拶をしました。この校(園)舎での多くの思い出を、心の中にしっかりと刻み込んだことでしょう。
 また、十月十二日には、秋季大運動会が行われ、多数の保護者や来賓の方が参観する中で、子供たちは日頃の学習の成果を十分に発揮することができました。日中強い日差しが差し込むこともありましたが、屋上校庭で実施されたため、屋根の開閉式ドームを作動させて、快適な運動会ができました。
 これからも昌平童夢館は、子供たちをはじめ、地域の方に親しまれる施設になることとしよう。



▲旧校(園)舎に感謝の心を込めて



▲六年生児童による「昌平祝太鼓」



▲楽しい保育の時間(幼稚園)



▲みんなで考える算数の授業

地域の皆さんに 施設を開放しています

昌平童夢館では、小学校や児童館などが使用していない時間帯は、地域の方に施設を開放しています。

小学校の温水プールは、年間を通していつでも快適な水泳ができるようになってい

ます。ご家族やお友達同士で、楽しい水泳のひとときを過ごさ

れてはいかがでしょうか。また、昌平童夢館は、ミニユニテイスクール活動を支える施設でもあります。家庭・学校・地域が一体となって、文化やスポーツなどの身近な活動の場として利用されています。小学校の屋上校庭・多目



的ホール・体育館や、児童館の音楽AV室などを利用して、社交ダンス、合唱、バレーボール、卓球などの団体が現在活動されています。

今後この施設を大いに活用していただき、地域の方の生涯学習活動やミニユニテイ活動を通して、地域の活性化が進められることでしょう。



地域の皆さんの身近な図書館 昌平まちかど図書館が開館しました

十月三日、昌平童夢館の一階に「昌平まちかど図書館」が開館しました。

この図書館は、小説や実用書など地域の方から要望の高い図書を中心に揃え、皆さんに気軽に利用いただける図書館として設置しました。開館時間は午前九時から午後十時までで、他の区立図書館から図書を取り寄せることもできます。読書の秋です。たくさんの方のご利用をお待ちしています。



▲文学図書も多数揃え、地域の方に好評のまちかど図書館

中学校の適正配置は 平成九年度実施を延期します

十月二十一日に開催された教育委員会では、中学校の適正配置を平成九年度に実施することは困難であると判断し、来年度の実施を見合わせることにしました。

これは、(仮称)第三中学校に関する懇談会の状況や、(仮称)第一中学校の仮校舎として使用する九段中学校の耐震診断の結果など、総合的に検討し、議論した結果によるものです。

教育委員会は、児童・生徒数の減少などに伴う小規模化や校舎の老朽化の問題を早急に解消するために、区立中学校の適正配置を、平成九年度に実施することを提案してきました。

今川中学校と練成中学校からなる(仮称)第三中学校について、六月十三日には適正配置に対する地域の意見を広く伺うために懇談会を設け、去る八月九日に第一回目を開催したところです。

しかしながら、その後の状況から懇談会の開催を一時見合わせ、まず関係する小・中学校PTAを中心に、保護者の皆さんが抱く当面の心配事などについて、お答えする会を開催してきています。

教育委員会では、懇談会をはじめ保護者、地域の皆さんの意見を十分踏まえ

て、手順・手続きを大事にしながら、中学校適正配置を円滑に実施していかねばならないと考えています。

このため、平成九年度から(仮称)第三中学校を発足させることは、時期的にも困難と判断しました。

一方、麴田中学校と九段中学校からなる(仮称)第一中学校については、仮校舎となる九段中学校を耐震診断したところ、校舎の一部に補強が必要となり、教室数の関係から、(仮称)第一中学校の仮校舎としては、当分の間使用できないことが明らかになりました。そこで、改めて麴田中学校の耐震診断を行うことになり、その結果を待って校舎建設について総合的に判断することにしました。

(仮称)第一中学校についても、現在の九段中学校学区の一部が編入されることになっており、(仮称)第一中学校と密接な関連があります。

以上の状況から、十月二十一日の教育委員会で、中学校の適正配置を平成九年度に行うことは困難との結論に達しました。

問い合わせは

教育条件整備担当課

TEL(03)4101-5151

秋の学校行事



▲さすがに高原での農作業(和泉小)

十月四日、国立競技場で小・中学校陸上競技大会が開催されました。当日は子供たちが日頃から積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮して、左記のような素晴らしい記録が誕生しました。

また、十月十六日から二十五日までの期間に、秋の婦孺自然体験交流教室が実施されました。婦孺村の方に協力いただき、野菜を収穫した子供たちは、夏の間に太陽の光を一杯に浴びて大きく成長したジャガイモや大根などを見て、歓声を上げていました。



▲力強い跳躍

大会		新記録	
二年女子	800m走	松村 絢(練成中)	2分31秒91
一年男子	100m走	平島 真弥(練成中)	12秒88
二年男子	2,000m走	天野 明(練成中)	6分29秒20
五年女子	走り幅跳び	栗下今日子(和泉小)	3m80cm

全小学校に

コンピュータ設置

最近、家庭へのパソコンの普及は、自覚ましい勢いだといわれています。科学技術の発展とともに、社会の情報化はますます進むものと思われれます。これからの子供たちが情報を適切に判断し、活用する能力を身につけることは大切なことです。この九月には区内全小学校にコンピュータが設置され、すでに導入されている中学校とともに、いよいよコンピュータを活用した情報教育が本格化します。そこで今回は、区内小・中学校の実情と、今後の展望について説明します。

最近の子供たちは、ファミコンなどのゲーム機を自由自在に操るのが当たり前で、中には親のパソコンを自分のものにして使っている子供も見受けられます。今後一層高度になるであろう情報化社会に対応するため、子供が自ら必要な情報を選択し、適切に判断するなど情報を活用する能力を育成することが求められています。

そのために、コンピュータを活用した教育活動を行います。

▼中学校のコンピュータを活用した教育活動

本区では平成三・四年度に、各中学校にコンピュータを二十一台ずつ設置しました。現在、技術・家庭科でのコンピュータを理解する学習を中心に、理科、数学、社会、美術などの教科において、データを探してまとめたり、グラフの作成やテ

ザインをしたりするなど、様々な学習に活躍しています。さらに、クラブ活動や生徒会活動などでもコンピュータを活用しています。

▼全小学校にコンピュータ導入

小学校には、今年度八月から九月にかけて、児童用コンピュータを二十一台ずつ一斉に導入しました。

機種は、小・中学校の連続性を考えて中学校と同一とし、いま話題のウィンドウズ95も搭載された、小学校で使用するものとしては現在、最高水準の機器です。

また、二十一台のコンピュータはネットワークで結ばれ、教師は子供が操作している画面を取り出して見たり、教師の作成した画面を子供のコンピュータに送ったりすることができるようシステムとなっています。

▼学習や遊びの道具としてのコンピュータ

小学校では、情報化社会に対応できる基礎的な資質を身に付けさせることが大切です。したがってコンピュータの利用については、仕組みの理解や操作の習熟よりも、むしろ「コンピュータに「触れる」「慣れる」「親しむ」「こころに主眼をおき」「コンピュータを学習や遊びの道具として使うことを基本にしています。

例えば、絵や文字などを入力できるソフトを使って絵本を作成したり、学習のまとめを行ったりして、表現力を育てることが出来ます。また、天体の動きや立体図形の断面図などを学習する場合、子供たちが自ら調べたことをシミュレーションのソフトを活用して確かめることが



▲2人に1台ずつのコンピュータ（麹町小）



▲友達と力を合わせて楽しく学習（麹町小）

このように、コンピュータの特性を生かした学習を行うことにより、学ぶ楽しさを味わい、しかも効果的な学習活動を進めることができます。

▼教員の研修

コンピュータの導入により、現場の教員の研修は必要不可欠の課題です。今年度の夏休みには教育研究所において、小学校の教員を対象として特別に研修コースを開設し、大勢の教員が受講しました。また、今後子供たちの学習への支援の充実のため、各学校ごとの研修会も開催し、教員の指導技術の向上を目指しています。ご家庭でもコンピュータについて話題にし、子供たちの学習の様子を、温かく見守っていただければと思います。

教育委員の選任

長年、教育委員としてご尽力された小林泰而氏が任期満了のため退任され、新しく石川晴彦氏が就任いたしました。また、井澤一弘教育委員（教育長）も任期が満了しましたが、区議会の同意を得て再任されました。従って、教育委員会は次のような構成になりました。

教育委員会は、来るべき二十一世紀に向けて、様々な教育課題に対応してまいります。



教育委員長
栗岩 英雄



教育委員長職務代理
曾根 史子



教育委員
横山 安宏



教育委員
石川 晴彦



教育委員（教育長）
井澤 一弘

中学校生徒 海外交流教育を実施

海外の生徒との交流を通じ、国際性豊かな人間の育成と、友好親善を目的とする中学校生徒海外交流教育は、昨年度と同様にイギリスのウエストミンスター市への派遣となりました。十月二十一日に結団式を行った後、二十三日に出発し、ヨーロッパの文化と伝統を直接体験し、十一月五日に帰国しました。

海外派遣生徒氏名

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 麴町中 | 鎌木 信行 | 谷口 奈々 |
| 九段中 | 今井 悠人 | 萩原 希 |
| 一橋中 | 伊東 玲 | 高岡 美 |
| 今川中 | 栗田 和志 | 渡辺 菜月 |
| 練成中 | 大出 武 | 林 真実 |



▲結団式にて

千代田区の指定文化財 — その三 —

- 指定番号 千有(建)第二号
- 種別 千代田区有形文化財「建造物」
- 名称 日枝神社境内末社
- 名称 「山王稲荷神社本殿」
- 所有者 日枝神社(永田町二十一五)
- 指定日 昭和六十三年四月一日

「千代田区史」によれば、本社である日枝神社は、江戸氏が江戸の鎮守として勧請し、太田道灌が再興したもので、古来から信仰されてきました。江戸時代になってからも、産土神として歴代将軍に崇敬された神社であり、寛永十二年(一六三五)以降は社領として、江戸幕府から六百石を与えられていました。

日枝神社の本社は、万治二年(一六五九)麴町半町から現在地に移築されました。



だが、山王稲荷神社は、本社移築以前の土地が丹波福知山藩(現在の京都府福知山市)の藩主松平家の屋敷であった頃から、邸内の鎮守として祭られており(各大名は、江戸への妻子の居住を命じられると、領地の菩提寺や氏神などを邸内や寺町へと勧請して信仰しました)、日枝神社の移築と同じ頃に、稲荷神社として造営されたものと考えられます。山王稲荷神社は、十七世紀の中頃に江戸幕府によって盛んに行われた神社や寺院の造営の歴史を知る上で、その当時の寺社の建築様式を江戸に残している数少ない建造物の一つです。神社の本殿は、春日造と称される建築様式の中でも希少な、隅木の入らない縄破風という形式を持つものです。

しかも、昭和二十年(一九四五)五月二十五日の東京への空襲以後、日枝神社の本社の社殿が復興再建されるまでの間、本殿として利用されてきました。建物の基壇の周囲には、近年に改変がなされた跡が残っていますが、その他の部分については大きな改造は見られないことから、この「山王稲荷神社本殿」は、造営された当時の状態を現在にまで伝える貴重な建造物です。

今秋行われた小・中陸上競技大会や各学校の運動会などを参観させていただく機会に恵まれました。子供たちの元気一杯の姿や明るい声に励まされる幸せを、ひしひし

と感じることができました。ところで、現在の合計特殊出生率（女性が生涯に出産する数を表す）は、一・四三ですが、そうした中で私たちは今、少子化傾向や高齢化社会の到来を、本気で考える必要に迫られています。

出生率の低下の主な原因は、女性の高学歴化、晩婚化、そして社会進出によって仕事を持つことにあるとされています。

こうした現状では、子供を産み育てることが確かに難しいことなのかも知れません。

今年九月に文部省は、「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査研究協力者会議」を発足させて、少子化や女性の社会進出などに対応した幼稚園教育の在り方の研究を開始しました。

このように、女性が安心して子供を産み育てられるように、社会の制度や構造など様々な分野で、変化の兆しが見えています。元気な子供たちの声があふれる社会環境づくりを目指して、私たちもなお一層の努力をしていかなければならないと思います。

情報過多、価値観の多様化など、他人とのかかわり方が大変難しい世の中で、子供を育てることは、とても苦労の多いことだと思えます。また、生活上の基本的な躰は家庭教育にその原点があり、家庭の重要な役割を考えると、やはり楽しいとばかりいってられない



子育てとその喜び

曾根 史子

いのも事実です。

しかし、子供と共に味わう苦しみや楽しさは、子供と共に夢や将来を語る喜びでもあり、この上なく幸せなことと思います。

かつて私が子供のPTAの一員であった頃は、まさに子育ての真つ最中であ

あり、様々な苦勞の連続で、つらい毎日であったように思い出されます。しかし、この苦勞がとても大事なことで、親としての喜びや幸せなことだったのだと、今になって気がつくのです。そして、取り返しのできない過ぎた時間を、とても残念に思っています。

どうか保護者の皆様、自信を持って一生懸命子供を育てましょう。素敵な花を咲かせましょう。それが親の最大の喜びであり、責任なのですから。

また、学校の先生方には、少子化のため、とかく過保護になり甘やかされているといわれる子供たちに、社会や集団の中での役割や、世の中を生きるためのルールなどをしっかりとご指導いただきたいと思えます。次代を託す子供たちの人生が、一層輝かしいものでありますように、さらなるお力添えを心からお願いたします。

私たちはまことに微力ではありますが、子供たちの幸せのために、それぞれの立場で努力をしてまいりたいと思っております。

そね ふみこ

千代田区教育委員長職務代理

きょういく

随想

編集後記

秋の気温は階段状に下降するそうで、急激な気候の変化にはなかなかからだが追いついていません。しかし、秋の学校行事や連合行事は滞りなく進められています。中学校のウエストミンスター市への派遣団も、昨年に引き続き大きな成果を挙げて帰国しました。現地で身につけた多くの知識や国際感覚を、学校の友達にも是非広げてほしいと思います。

さて、前号でも取り上げました「昌平童夢館」は、その先進的な施設が各方面から注目され、見学希望者が殺到しています。十月七日には、アトラクタオリンピックの陸上の勇者マイケル・ジョンソン選手と、女子マラソンの有森選手がそろって来館し、屋上校庭で子供たちと走り、給食を共にしたりするなど、楽しいひとときを過ごすことができました。

また、地域のコミュニティスクールとしても、開館と同時に多くの団体がこの施設を利用し、活発な活動を展開しています。まもなく師走を迎え、二学期もいよいよまとめの段階に入ります。

教育広報「かけはし」第二十七号
平成8年11月15日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
TEL 03(326)4015 FAX 03(326)1114